

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成25年9月5日 (2013.9.5)

【公開番号】特開2013-67635(P2013-67635A)

【公開日】平成25年4月18日 (2013.4.18)

【年通号数】公開・登録公報2013-018

【出願番号】特願2012-255810(P2012-255810)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/421 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 9/10 (2006.01)

A 6 1 K 47/20 (2006.01)

A 6 1 K 47/14 (2006.01)

A 6 1 K 47/34 (2006.01)

A 6 1 K 47/38 (2006.01)

A 6 1 K 47/32 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/421

A 6 1 P 43/00 1 0 5

A 6 1 P 9/10

A 6 1 K 47/20

A 6 1 K 47/14

A 6 1 K 47/34

A 6 1 K 47/38

A 6 1 K 47/32

【手続補正書】

【提出日】平成25年7月19日 (2013.7.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

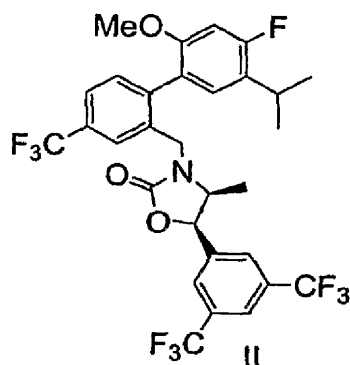
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(a) 下式 I I を有する C E T P 阻害化合物またはその医薬的に許容され得る塩、と、
 (b) イオン化可能なセルロースポリマー、イオン化不能なセルロースポリマー、並びに
 ヒドロキシ、アルキル、アシルオキシ及び環状アミドからなる群から選択される置換基を
 有するビニルポリマー及びコポリマーからなる群から選択される濃度増大ポリマー、とを
 組み合わせて使用することを特徴とする、式 I I を有する C E T P 阻害化合物のインビボ
 での生体利用度を向上させる方法。

【化 1】



【請求項 2】

前記濃度増大ポリマーがヒドロキシプロピルメチルセルロースアセテートサクシネート（HPMCAS）、ヒドロキシプロピルメチルセルロースフタレート（HPMCP）、セルロースアセテートフタレート（CAP）、セルロースアセテートトリメリテート（CAT）、メチルセルロースアセテートフタレート、ヒドロキシプロピルセルロースアセテートフタレート、セルロースアセテートテレフタレート、セルロースアセテートイソフタレート、ポリビニルピロリジノン及びポリビニルピロリジノン - ポリ酢酸ビニルコポリマーからなる群から選択される請求項 1 の方法。

【請求項 3】

前記濃度増大ポリマーがヒドロキシプロピルメチルセルロースアセテートサクシネート（HPMCAS）、ヒドロキシプロピルメチルセルロースフタレート（HPMCP）、セルロースアセテートフタレート（CAP）及びセルロースアセテートトリメリテート（CAT）からなる群から選択される請求項 2 の方法。

【請求項 4】

前記濃度増大ポリマーがヒドロキシプロピルメチルセルロースアセテートサクシネート（HPMCAS）である請求項 3 の方法。

【請求項 5】

前記濃度増大ポリマーがヒドロキシ、アルキル、アシルオキシ及び環状アミドからなる群から選択される置換基を有するビニルポリマー及びコポリマーからなる群から選択される請求項 1 の方法。

【請求項 6】

前記濃度増大ポリマーがポリビニルピロリジノン及びポリビニルピロリジノン - ポリ酢酸ビニルコポリマーからなる群から選択される請求項 5 の方法。

【請求項 7】

前記濃度増大ポリマーがポリビニルピロリジノン - ポリ酢酸ビニルコポリマーである請求項 6 の方法。

【請求項 8】

請求項 1 の方法であり、前記方法が、アニオン性界面活性剤及びノニオン性界面活性剤からなる群から選択される 1 つ以上の界面活性剤を更に組み合わせて使用することを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

請求項 2 の方法であり、前記方法がドデシル硫酸ナトリウムから選択される 1 つ以上の界面活性剤、及び（a）ソルビタン脂肪酸エステル、（b）ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、（c）ポリオキシエチレンヒマシ油、（d）ポリオキシエチレン水素化ヒマシ油及び（e）ビタミン E TPGS から選択される 1 つ以上のノニオン性界面活性剤を更に組み合わせることを特徴とする請求項 2 に記載の方法。

【請求項 10】

請求項 5 の方法であり、前記方法がアニオン性界面活性剤及びノニオン性界面活性剤からなる群から選択される 1 つ以上の界面活性剤を更に組み合わせて使用することを特徴とす

る請求項 5 に記載の方法。

【請求項 1 1】

請求項 6 の方法であり、前記方法がドデシル硫酸ナトリウムから選択される 1 つ以上の界面活性剤、及び (a) ソルビタン脂肪酸エステル、(b) ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、(c) ポリオキシエチレンヒマシ油、(d) ポリオキシエチレン水素化ヒマシ油及び (e) ビタミン E T P G S から選択される 1 つ以上のノニオン性界面活性剤を更に組み合わせることを特徴とする請求項 6 に記載の方法。

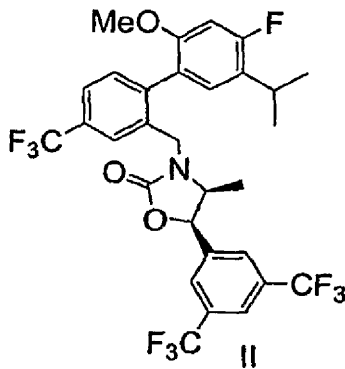
【請求項 1 2】

前記界面活性剤がビタミン E T P G S であり、及び前記濃度増大ポリマーがコポビドンである請求項 11 の方法。

【請求項 13】

式 I I

【化 2】



を有する C E T P 阻害化合物のインビボでの生体利用度を向上させるための、

イオン化可能なセルロースポリマー、イオン化不能なセルロースポリマー、並びにヒドロキシ、アルキル、アシルオキシ及び環状アミドからなる群から選択される置換基を有するビニルポリマー及びコポリマーからなる群から選択される濃度増大ポリマーの、前記化合物との併用による使用。

【請求項 14】

請求項 13 の使用であり、前記使用がアニオン性界面活性剤及びノニオン性界面活性剤からなる群から選択される 1 つ以上の界面活性剤を更に組み合わせて使用することを特徴とする請求項 13 に記載の使用。

【請求項 15】

前記界面活性剤がビタミン E T P G S であり、及び前記濃度増大ポリマーがコポビドンである請求項 1 4 に記載の使用。